

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自己肯定感の向上と集団づくりとコミュニケーション力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同授業研の実施 ・夏季小中合同研修会の実施 ・南中ブロックスタンダードの実践検証と、目指す子ども像の共通理解 ・人権学習における共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討 ・連携通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施。 ・夏季小中合同研修会の実施 ・南中ブロックスタンダードの定着に向けての検証 ・人権学習における共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・英語教育の小中・小小交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討 ・連携通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施。 ・夏季小中合同研修会の実施 ・自己肯定感向上につながる南中ブロックスタンダードのさらなる検討、検証 ・人権学習における共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・英語教育の小中・小小交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討、見直し ・連携通信の発行
確かな学力の育成	自ら学び、自ら考え、判断、行動し、よりよく問題を解決する力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○推進計画の作成 ○全職員の共通理解(研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成) ○3研究部会での校内研究授業・授業公開・研修会の実施 ○わかる・楽しい・居場所がある授業・環境づくり(南中スタンダードの実践・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり) ○基礎学力の充実(習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等) ○思考力・判断力・表現力の育成(問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等) ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み(いきいきスクール・NET) ○読書活動の充実(朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○初年度の取組みの検証と計画の見直し ○全職員の共通理解(研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成) ○3研究部会での校内研究授業・研修会の実施 ○わかる・楽しい・居場所がある授業・環境づくり(南中スタンダードの検証・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり) ○基礎学力の充実(習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等) ○思考力・判断力・表現力の育成(問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等) ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み(いきいきスクール・NET) ○読書活動の充実(朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年間の取組みの検証と計画の見直し ○全職員の共通理解(研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成) ○3研究部会での校内研究授業・研修会の実施 ○自己肯定感向上につながる授業・環境づくり(南中スタンダードのさらなる検証、定着・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり) ○基礎学力の充実(習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等) ○思考力・判断力・表現力の育成(問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等) ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み(いきいきスクール・NET) ○読書活動の充実(朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな人間性を育む</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">な心を育てる 自己肯定感・自己有用感を高め、友だちと認め合える豊かな</p>	<p>○つながりを大切にした授業づくり (子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師) ○系統性のある人権学習の取組みの推進 (ちがいやもちあじを認め合い豊かさに) ○6年間の積み上げを大切にした取組み (人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ) ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳教科化へ向けての研究 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携</p>	<p>○つながりを大切にした授業づくり (子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師) ○系統性のある人権学習の取組みの推進 (ちがいやもちあじを認め合い豊かさに) ○6年間の積み上げを大切にした取組み (人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ) ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳の時間を要とした道徳教育の研究・推進 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携</p>	<p>○つながりを大切にした授業づくり (子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師) ○系統性のある人権学習の取組みの推進 (ちがいやもちあじを認め合い豊かさに) ○6年間の積み上げを大切にした取組み (人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ) ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳の時間を要とし、教育活動全体を通じての道徳教育の推進 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健康・体力の増進</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">心身ともに健康で、たくましく生きる力を育てる</p>	<p>○なわとび朝会 (ペア学級) ○マラソン大会、ウィンタートレーニング (持久走) ○立命館大学と連携し、授業において短時間運動プログラムの導入。全学年体力テストの実施。 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの提案 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成 (養護教諭、栄養教諭との連携)</p>	<p>○なわとび朝会 (ペア学級) ○マラソン大会、ウィンタートレーニング (持久走) ○立命館大学と連携した短時間運動プログラムを取り入れた成果を体力テストの結果を基に考察した上で必要な運動の積極的な実施 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの考察 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成 (養護教諭、栄養教諭との連携)</p>	<p>○なわとび朝会 (ペア学級) ○マラソン大会、ウィンタートレーニング (持久走) ○前年度考察した児童の強み、課題を基に必要な短時間運動プログラムを行い、体力テストの結果の考察。 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの考察 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成 (養護教諭、栄養教諭との連携)</p>
<p>支援教育の充実</p>				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

**(領域ごと)**

- | | |
|-------------|---------------|
| ① 話すこと・聞くこと | やや課題が残る結果であった |
| ② 書くこと | 良好な結果であった |
| ③ 読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ 言語事項 | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③ 記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
「【知りたいこと】を調べるために選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する」設問
- ・ もっとも正答率の低かった設問
「【かんしん（関心）】を漢字を使って書き直す」設問
- ・ もっとも無解答率の高かった設問
「話し手の意図を捉え、自分の考えをまとめて書く」設問
- ・ もっとも無解答率の低かった設問
「資料をどのような目的で用いているか、適切なものを選択する」設問

分析

- ・ 「読むこと」領域と「選択式」の問題形式は「概ね良好な結果」であった。
- ・ 「言語事項」領域では、「課題残る結果」となった。「漢字を使って書き直す」設問での正答率の低さが関係している。
- ・ 「書くこと」領域は「良好な結果」となったが、「短答式」や「記述式」の問題形式では、条件を満たして書くことに課題が見られた。今後も国語科のみならず様々な授業の中で、「書く力」の向上を目指した取組みを今後も継続していく必要がある。
- ・ 「話す・聞く」領域では「やや課題が残る結果」となった。設問目での、「インタビューの様子」を読み取って、選択したり記述したりすることへの課題が影響している。
- ・ 無解答率も「やや課題が残る結果」であり、全国平均と比較すると高かった。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|-----------|
| ①数と計算 | 良好な結果であった |
| ②量と測定 | 良好な結果であった |
| ③図形 | 良好な結果であった |
| ④数量関係 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-----------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る」設問
- ・もっとも正答率の低かった設問
「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する」設問
- ・もっとも無解答率の高かった設問
「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する」設問
- ・もっとも無解答率の低かった設問
「図形の中から台形を選ぶ」設問と「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る」設問

分析

- ・全ての領域・問題形式で平均正答率が全国平均を上回った。特に「量と測定」領域は「満足できる結果」となった。問題解決型学習に取り組んできた成果と言える。
- ・無解答率は、全国平均よりも上回っているものも多く、課題の残る結果となった。
- ・「数量関係」領域での「判断理由を選択し、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする」設問に関しては正答率が高かった。
- ・「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する」設問では、数の意味や演算の意味などを図形と関連付けて説明することが大切であるが、無解答が目立つ。
- ・「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する」設問では、正答率は全国平均より高いが、無解答率では課題があった。
- ・「記述する」設問への苦手感は、算数でも見られる。普段の授業の中で、自分の考えを記述していくことを大切にしていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・数年全国平均を下回った年が続いていたが、今年度はわずかに全国平均を上回った。
- ・算数は、昨年度までより大幅に正答率が高く、全国平均も大きく上回っている。
- ・国語の正答率の低下傾向は、この数年続いている。
- ・無解答率もここ数年は全国平均より高い結果となっている。

学力高層と学力低層、エンパワー層についての分析

- ・昨年度まで全国平均より低下していた学力高層の割合と増加した学力低層の割合は、今年度はそれぞれ改善傾向が見られる。
- ・しかし、教科別では、国語での低層の割合は高く、高層の割合は低い。
- ・低層の推移とエンパワー層の推移は似ており、エンパワー層の底上げが学力の底上げにつながると考えられる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

南中ブロックスタンダードを基本とした授業のユニバーサルデザイン化の実践

- ・落ち着いた学習に取り組める環境づくりのために、教室の環境整備を行い、授業の準備をきちんと整えさせる。
- ・チャイム着席や授業ははじめとおわりのあいさつなどの授業規律を大切にす。
- ・どの子も分かる、学び合いのある授業づくりのために「課題」・「めあて」・「学習の見通し」・「自力解決」・「学びの振り返り」など、学習時間の構造化を推進する。
- ・学習の協働化・共有化を図るために、ペアやグループ活動など、友だちと話し合う時間をもち、互いの意見を交流するなかで考えが深まるようにしていく。
- ・視覚教材や具体物を活用し、体験的に学べる授業づくりを行う。

1～6年までの系統立てた学習活動の推進

- ・教職員間での取組みの共通理解を図り、校内研修での授業力の向上を目指していく。

児童が安心して学習できる居場所づくり

- ・学力向上に向けて、普段の人間関係づくりや集団づくりを大切にす（みずおの「み」の「みんな仲良く」）。
- ・一人ひとりを大切にす人権教育を推進していく。

基礎学力の充実

- ・習熟度別学習や少人数分割指導を行うと共に、学習サポーター等との連携や、授業中の人的支援の有効な活用を進め、個別に支援できる体制づくりを継続して行っていく。
- ・基礎基本の反復練習を重ねるなど、習熟できずに終わってしまう児童への細やかな対応や取組みを行う。
- ・「宿題がんばり週間」などを活用し、家庭学習の確認を続け定着を図るとともに家庭との連携も強めていく。
- ・毎学期の「学び方をふりかえろう（自己評価）」で、自分の学習への向き合い方を見つめなおさせ、学ぶ意欲を高めさせ、家庭へも個人懇談で啓発させる。

問題解決型の学習

- ・主体的に課題に取り組む、思考力・判断力・表現力が育めるような授業づくりを行っていく。
- ・考えをつなぎ、深めるために、ペアやグループでの交流、全体での練り上げを大切にす。

ノート指導

- ・学んだ成果が見られる丁寧なノートづくりにつながる指導を行う。
- ・授業の最後の振り返りを自分のことばでまとめることで、学習の自己評価を行うとともに、「書くこと」にもつなげていけるようにす。

読書活動の充実

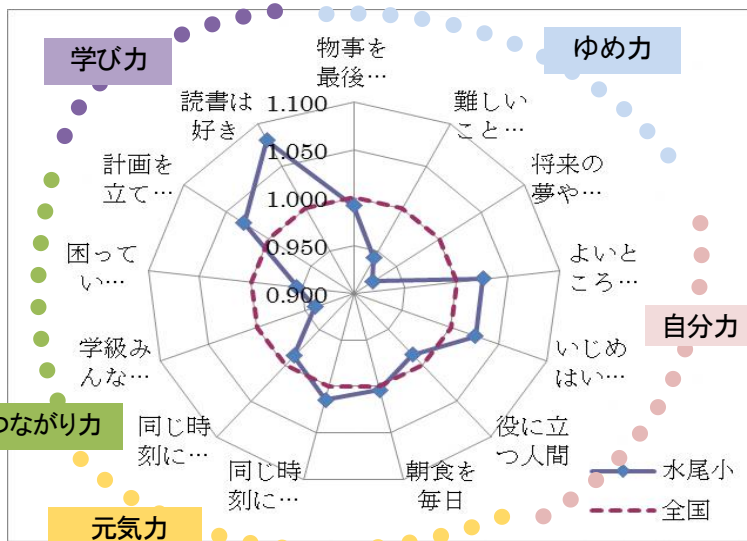
- ・「読書が好き」「楽しい」と実感することで「読むこと」への意欲を高めていきたい。そのために「朝の読書タイム」や「読み聞かせ」「絵本のひろば」などの取組みを継続していく。

学習意欲の向上

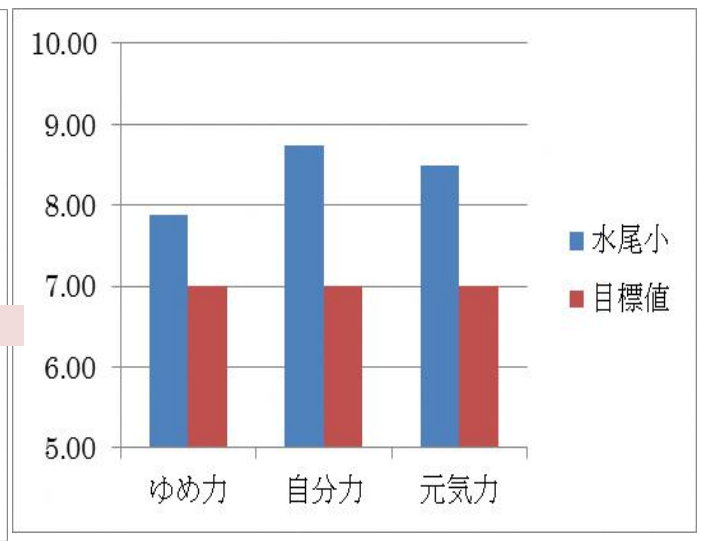
- ・無解答率を減らしていくために、「何事にも前向きに取り組む」「間違えることをおそれず挑戦してみる」「諦めずに問題と向き合う」ことができるよう、常日頃から声をかけ、児童の意欲を高めていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

- 「ゆめ力」「自分力」「元気力」全てにおいて設定目標値の「7.00」を上回っている。

ゆめ力について 「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」は全国平均を下回っていた。

自分力について 「自分にはよいところがある」と自己肯定感が高いことが伺える。また、「いじめはどんなことがあってもいけない」と考えている児童の割合も高く、自分も他人も大切にしようとする姿勢が見られる。

元気力について 「毎日同じ時刻に寝る」「朝食を毎日食べる」が全国平均を上回っているのに対し、「毎日同じ時刻に起きる」は下回っているため、朝の生活習慣等、規則正しい生活が体力だけでなく、学力の向上にもつながるといふことこの家庭への発信をさらに行っていく必要がある。

学び力について 「自分で計画を立てて勉強する」「読書は好き」が全国平均を大きく上回った。読書への意欲を大切にするとともに、言われたことや出された宿題だけでなく、自主学習に取り組むことや目標をもって進んで勉強することの大切さを、今後も伝えていきたい。

つながり力について 「学級みんなで話し合っ決めてことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」「人が困っているときは、進んで助けている」は全国平均を下回っていた。つながる力を大切にしたい取り組みの中で育んでいかなければならない。

取組み

いろいろな人とつながり、自分も他者も尊重できる子どもを育て、規律を守り、互いの個性を高め合う集団づくりをめざすため、以下の取組みを行っていく。

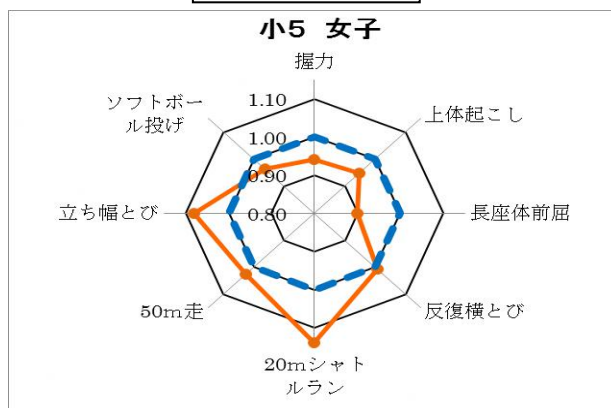
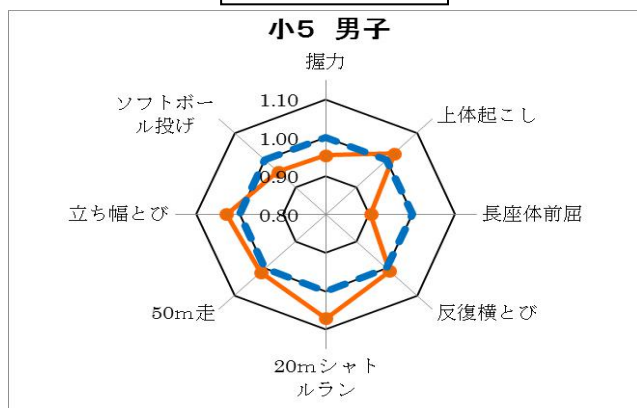
- ・集団づくりや人間関係づくりを含んだ人権教育の視点を大切に授業づくりを進め、子ども同士のつながりを深めていく。(互いの良さや違いを認め合える仲間関係づくり、一人ひとりが自信を持てる場づくり、信頼し合える学級づくり等)
- ・系統性のある人権学習の研究を行い、出会いや参加・体験を大切に実感のある人権学習を進めていく中で、違いやもちあじを認め合い、それを豊かさにするような人権感覚を育てていく。
- ・人権週間の取組み、各学年に応じた平和教育や「平和集会」での交流、ペア学級での異学年交流、MJF(水尾児童会フェスティバル)など、6年間の積み上げを大切に取組みを今後も継続していく。
- ・自己肯定感を高め合えるような、子ども同士のかわりや自己有用感を感じられるような活動を意識的・計画的に取り入れていく。
- ・生活アンケートを実施し、集団づくりに活用する。(年3回、毎学期)
- ・規範意識を高めるために、きまりの徹底や長期休業前の生活指導等を行い、規律ある学校づくりを進める。
- ・児童理解を深めるために、家庭との日常的な連携を大切にするとともに、地域や保幼小中との連携も図っていく。
- ・道徳教育の充実を図るための教材研究・授業研究を行っていく。
- ・学力向上、人権教育、支援教育の校内研修に加え、体力向上、情報・図書館教育などさまざまな研修を実施し、教職員の意識向上を図る。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

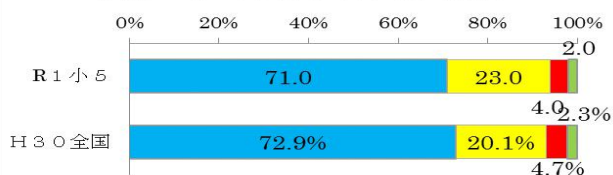
男子 (小5)

○●体力●○

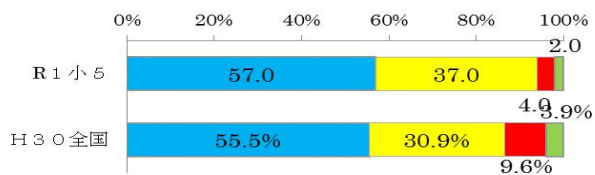
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・小学5年男子では、上体起こし、反復横とび、50m走、立ち幅とびで全国平均を上回り、20mシャトルランについては、全国平均を大きく上回っている。握力とソフトボール投げは全国平均を下回っており、長座体前屈では、全国平均を大きく下回る結果となった。
- ・小学5年女子では、反復横とび、50m走で全国平均を上回り、20mシャトルランと立ち幅とびについては、全国平均を大きく上回っている。握力、上体起こし、ソフトボール投げでは全国平均を下回り、長座体前屈では、男子と同じく全国平均を大きく下回っている。
- ・50m走については、去年までの過去3年間で全国平均を下回る結果が続いていたが、今年度は男女ともに全国平均を上回る結果となった。
- ・「運動が好きですか」、という質問に好きと答えた割合は、男子は高い数値を維持し、向上している。一方、女子は過去2年間で減少が続いていたが、今年度は大きく向上する結果となった。

取組み

- ・立命館大学スポーツ健康科学部指導のもと、毎授業の準備運動で短時間プログラム（ジャンプ、柔軟など立ち幅跳びや長座体前屈などにつながる動き）を取り入れ、継続的に行っている。
- ・全学年において年に一回、新体力テスト8種目の測定を今後も取り組んでいく。
- ・「茨木っ子運動」を全学年で実施し継続していくことで、体幹を鍛えるとともに、姿勢保持にもつなげていく。その上で、課題である筋力、柔軟性の向上に努めていけるよう、正しい動きを低学年のうちから指導していく。
- ・体力アップタイム（体育の用具を使った休み時間の活動）やなわとび道場（なわとびに特化した休み時間の活動）、ウィンタートレーニングなど、全校での取り組みも継続して行っていく。
- ・教員の授業力向上のため、校内自主研修会を積極的に実施していく。（茨木っ子運動、短時間運動プログラム、着衣泳、体育授業プログラム等）
- ・年間カリキュラム、体育授業のスタンダード、体育授業プログラムを活用できるように、教職員間で共通理解を図り、系統性のある授業を組み立てていく。
- ・体育の授業の中で、休み時間に子どもたち自身が実践できる活動を行い、休み時間に運動場に出て、体を動かすことができるように促していく。
- ・体育用具を整備し、より使いやすく、円滑な準備や片付けができるようにし、授業中の運動量を確保したり、場の設定を工夫したりするなど、充実した学習へとつなげていく。
- ・栄養教諭や養護教諭とも連携し、食生活や健康を維持することの大切さを伝えていく。